

平成 26 年 7 月 18 日

遊佐町長 時田 博機 殿

遊佐町環境マネジメントシステム監査チーム

主任監査員 佐藤正子

副主任監査員 遠藤はる奈

独自目標監査報告書

LAS-E 独自目標の監査結果について、以下のとおり報告いたします。

1. 監査日時

平成 26 年 7 月 18 日 (金) 13:30~14:30

2. 監査対象

遊佐町役場

3. LAS-E 監査内容

LAS-E 独自目標の平成 25 年度実績

第 1 ステージ No.12 (エコアクション)
No.23 (エコマネジメント)
No.30 (エコガバナンス)

4. 監査結果

部 門	平成 25 年度 独自目標	25 年度実績	達成 状況	部門 評価
		基準年との比		
エコア クシ ョ ン 部 門	1 庁舎及び公有施設における電気使用量を、平成 22 年度と比較して 3%以上削減します。	1,017,195kWh	○	△
		△9.83%		
	2 庁舎及び公有施設におけるガス使用量を、平成 22 年度と比較して 3%以上削減します。	8,853 m ³	○	
		△11.35%		
	3 庁舎及び公有施設における灯油使用量を、平成 22 年度と比較して 3%以上削減します。	175,318ℓ	×	
		△0.72%		
	4 庁舎及び公有施設における公用車燃費、平成 22 年度と比較して向上させます。	ガソリン車 12.68km/ℓ	○	
0.36%				
ディーゼル車	4.13m/ℓ	×		
	△3.67%			
5 庁舎における可燃ごみ排出量、平成 22 年度と比較して 6%以上削減します。	1,517kg	×		
	15.42%			
6 庁舎及び公有施設における事務用紙使用量を、平成 22 年度と比較して 3%以上削減します。	1,100,000 枚	○		
	△30.00%			
7 庁舎及び公有施設から排出される二酸化炭素排出量を、平成 22 年度と比較して 3%以上削減します。	833,251kg	○		
	△4.16%			
エコマ ネジ メ ン ト 部 門	8 環境に関する研修（部署別研修を含む）を年 2 回以上開催します。	全体研修 2 回	○	○
		—		
エコガ バ ナ ン ス 部 門	9 環境に関する情報を、広報・HP で年 12 回以上提供します。	29 回	○	○
		—		

※ 達成状況：○＝達成、×＝未達成

※ 評価：○＝良好、△＝軽微だが改善すべき点あり、×＝勧告に値すべき点あり

5. 所見

平成 25 年度の独自目標について監査した結果、エコアクション部門は△、エコマネジメント部門およびエコガバナンス部門は○と評価しました。

エコアクションの視点に基づく目標のうち、灯油使用量、公用車燃費（ディーゼル車）、可燃ごみ排出量の目標が達成されませんでした。

公用車のうちディーゼル車は主にスクールバスの運行によるものです。古い車両ですが簡単に更新できるものではないため、当面は委託先でもエコドライブが徹底されるように要請し続けていくことです。実績値を収集するだけでなく、前年・前々年比の燃費データを基に運転方法を振り返ってもらうような社内研修を呼びかけるなど、より積極的な働きかけをしていただきたいと思います。

可燃ごみについては、人事異動や退職に伴う物品整理が例年以上に多く発生したことが要因と考えられます。日ごろから業務関係の書類や物品の整理を意識的に行うことで、定常時の状態を正しく把握することができます。業務の効率化にも繋がりますので、各職場で定期的に書類・物品整理の機会を設けてはいかがでしょうか。

灯油使用量については、平成 26 年度の契約更新で単価が上がることを踏まえて年度末に給油量が増えたことが主な原因です。翌年度を見越したコスト節減策としてやむを得ないものと判断できますが、その分省エネ意識が低下することの内容に注意していただきたいと思います。

電気・ガスは目標を大幅に上回る状況で、エコアクションプランで掲げた目標を前倒しで達成することができました。しかし現場監査に訪れた各職場では、現在の取り組みが限界だとの声も聞かれ、これ以上の努力が難しいことを感じています。平成 27 年度にエコアクションプランを改定する際には、これまでの取り組みの継続だけでなく、中長期的な施設改修を計画の中心に据えることを検討してください。

事務用紙使用量は前年度比 30%減と大幅な削減を達成しましたが、前年度末までに購入していた在庫が多く残っていたことが影響しているようです。裏紙利用が当たり前のこととして根付いた一方で、「ミスコピーをしても裏紙利用すればよい」と安易に印刷する様子も一部に見られます。日々の業務における環境配慮行動がしっかり根付いた今、何のためのルールなのかを問い直し、意識を仕切りなおして継続していただくことを望みます。

エコマネジメントの視点に基づく目標については、全職員対象の省エネ研修と監査員研修が行われています。省エネ研修は総務課と共同開催にすることで周知を徹底し、高い参加率を維持しています。毎年テーマを変えて、受講する職員の興味関心を引き出そうとしている事務局の前向きな姿勢が窺えます。

エコガバナンスの視点に基づく目標については、目標を大きく超える数の広報記事が掲載されました。また全町対象の環境に関する講習会も 2 回開催され、多くの町民・職員が参加しています。外部の専門家から見た遊佐町の環境の現状を町民が知る機会を設けることは、非常に大きな意味があることです。ぜひ今後も継続し、町民・職員の学びを深めていただきたいと思います。

庁舎以外の公共施設でも環境配慮行動が徹底されるようになったことで、それを目にする町民にも自然と伝わり広まっているように思います。これまで繰り返し行ってきた環境配慮行動が「やらされている」ものではなく職場文化として定着し、無理なく継続されるものと期待しています。次のテーマとして、町民が関わりながら環境・エネルギー関連施策を動かしていく段階に入っているのではないのでしょうか。そのための仕組みづくりを具体化していただきたいと思います。